

宮城教育大学（上杉）附属中学校校舎他空調設備改修工事

I 工事概要

1. 工事場所 宮城県仙台市青葉区荒巻字青葉149（宮城教育大学青葉山団地構内）

2. 完成期限 令和 6年 8月 21日（水曜日）

3 建物概要

建物名称	中学校校舎	中学校実習棟	
工種	-	-	
構造	RC造3階	RC造2階	
階数	3階	2階	
建築基準法による	建築面積 (m ²)	-	-
	延べ面積 (m ²)	-	-
消防法施行令別表第一の区分	7項	7項	
改修面積 (m ²)	-	-	
備考			

4. 工事種目（●印の付いたものが対象工事種目）

工事種目	建物別及び屋外		
	中学校校舎	中学校実習棟	
● 空調設備	一式	一式	
○ 換気設備			
○ 排煙設備			
○ 自動制御設備			
○ 衛生器具設備			
○ 給水設備			
○ 排水設備			
○ 給湯設備			
○ 消火設備			
○ ガス設備			
○ 雨水利用設備			
● 撤去工事	一式	一式	

5. 指定部分 ○無 ○有 対象部分（指定部分工期 年 月 日）

6. 概成工期 ○無 ○有 令和 年 月 日（曜日）
（第1編1.1.2） [第1編1.1.2]

7. 設備概要（●印の付いたものを適用する）

方式及び種別	設 備 概 要
空調方式	●空冷ヒートポンプエアコン
主要熱源機器	○
自動制御方式	○電気式 ○電子式 ○デジタル式
給水方式	○高置タンク方式 ○
排水方式	建物内の汚水と雑排水（○合流式 ●分流式） ポンプ排水 ○有（○汚物 ○雑排水 ○湧水） ●無 排水槽 ○有（計画容量 m ³ ） ●無 建物外放流先 (1) 汚水 ●直放流下水管 (2) 雑排水 ●直放流下水管
消火設備の種類	○屋内消火栓設備 ○スプリンクラー設備 ○泡消火設備 ○連結散水設備 ○連結送水管 不活性ガス消火設備 ○（ ）
ガスの種類	○都市ガス（種別 13A、高位発熱量 46 MJ、低位発熱量 44 MJ） 供給圧力 1.0 kPa、一般ガス導管事業者名 仙台市ガス局） ○液化石油ガス

※改修の場合は既存概要を示す

II 工事仕様

1. 共通仕様

(1) 国立大学法人宮城教育大学工事請負契約要項別記の工事請負契約基準、現場説明書、図面 4 枚及び本特記仕様書 3 枚によるほか、●印の付いたものを適用する。

- 公共建築工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)(以下「標準仕様書」という。)
- 公共建築改修工事標準仕様書(機械設備工事編)(令和4年版)(以下「改修標準仕様書」という。)
- 公共建築設備工事標準図(機械設備工事編)(令和4年版)(以下「標準図」という。)
- 文部科学省機械設備工事標準仕様書(特記基準)(令和4年版)(以下「文科仕様書」という。)
- 文部科学省機械設備工事標準図(特記基準)(平成31年版)(以下「文科標準図」という。)
- 工事写真撮影要領(令和元年7月)

(2) 建築工事及び電気設備工事を本工事に含む場合は、それぞれの特記仕様書を適用する。
なお、建築工事の特記仕様書は() 図、電気設備工事の特記仕様書は() 図による。

2. 特記仕様

(1) 本特記仕様書の表記
1) 項目及び特記事項は、●印の付いたものを適用し、○印の付いたものは適用しない。
2) 項目に記載の(第 編) 内表示番号は、標準仕様書の該当項目番号を示す。
3) 項目に記載の〔第 編 〕内表示番号は、改修標準仕様書の該当項目番号を示す。
4) 項目に記載の<第 編 >内表示番号は、文科仕様書の該当項目番号を示す。

章	項目	特記事項
● 一般共通事項	○適用区分	建築基準法に基づき定まる風圧力及び積雪荷重の算定には次の条件を用いる。 ○風圧力 風速 (Vo= m/s) 地表面粗度区分 () ○積雪荷重 建設省告示第1455号における区域 別表 () この工事現場に、下記のいずれかの電気保安技術者を選任する。 項目名 電気保安技術者 1. 第3種電気主任技術者以上の資格を有する者 ● 2. 1級電気工事施工管理技士の資格を有する者 ● 3. 高等学校又はこれと同等以上の教育施設において、電気事業法の規定に基づく主任技術者の資格等に関する省令第7条第1項各号の科目を修めて卒業した者 ● 4. 旧電気工事技術者検定規則による高圧電気工事技術者の検定に合格した者 ● 5. 公益事業局長又は通商産業局長の指定を受けた高圧試験に合格した者 ● 6. 第1種電気工事士の資格を有する者 ● 7. 2級電気工事施工管理技士の資格を有する者 ● 8. 第2種電気工事士の資格を有する者 ● 9. 短期大学若しくは高等専門学校又はこれらと同等以上の教育施設の電気工学以外の工学に関する学科において一般電気工学(実験を含む)に関する科目を修めて卒業した者 ○
	●電気保安技術者(第1編1.3.2) [第1編1.3.2]	
● 施工条件(第1編1.3.3) [第1編1.3.3]		(1) 周辺建物使用中での施工となることから、安全管理に十分注意を払い施工すること。 (2) 施工時間については、監督員及び施設担当者で打合せ協議により決定する。(夜間・土日工事を行う等、他の建物使用への影響を最小限にすること) (3) 資材・機材置場、作業車両等の場所、動線については仮設計画書を作成の上、監督職員及び施設担当者で協議の上、施工するものとする。 (4) 撤去等の騒音、振動が発生する作業は監督職員と協議の上、施工すること。
● 環境への配慮(第1編1.4.1) [第1編1.4.1]		(1) 本工において、「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律(平成12年法律第100号)」に基づく「環境物品等の調達の推進に関する基本方針(令和4年2月閣議決定)」に定める特定調達品目の分野「公共工事」の品目を調達する場合は、判断の基準等を満たすものとする。 (2) 建築物内部に使用する材料等は、設計図書に規定する所要の品質及び性能を有すると共に、次の①から④を満たすものとする。 ①合板、木質系フローリング、構造用パネル、集成材、単板積層材、MDF、パーティクルボード、その他の木質建材、ユリア樹脂板、壁紙、接着剤、保温材、緩衝材、断熱材、塗料、仕上塗材は、アセトアルデヒド及びビスチレンを発生しない又は発散が極めて少ない材料で、設計図書に規定する「ホルムアルデヒドの放散量」の区分に応じた材料を使用する。 ②接着剤及び塗料は、トルエン、キシレン及びエチルベンゼンの含有量が少ない材料を使用する。 ③接着剤は、可塑性(フタル酸ジ-n-ブチル及びフタル酸ジ-2-エチルヘキシル等を含有しない難揮発性の可塑性剤を除く)が添加されていない材料を使用する。 ④①の材料を使用して作られた家具、書架、実験台、その他の什器類は、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド及びビスチレンを発生しないか、発散が極めて少ない材料を使用したものとする。
● 機材の品質等(第1編1.4.2) [第1編1.4.2]		(1) 本工事に使用する機材等は、設計図書に定める品質及び性能の他、通常有すべき品質及び性能を有するものとする。 (2) 下表に機材名が記載された製造業者等は、以下に指定する事項を満たす証明となる資料を提出して監督職員の承諾を受ける。 ただし、以下に指定する事項を評価されたことを示す外部機関が発行する書面を提出し監督職員の承諾を受けた場合は証明となる資料等の提出を省略することができる。 ○ 品質及び性能に関する試験データを整備していること。 ○ 生産施設及び品質の管理を適切に行っていること。 ○ 安定的な供給が可能であること。 ○ 法令等で定める許可、認可、認定又は免許を取得していること。 ○ 製造又は施工の実績があり、その信頼性があること。 ○ 販売、保守等の営業体制を整えていること。
	機材名	

○ 機材の検査等 機材の検査に伴う試験 (第1編1.4.5~6) [第1編1.4.5~6]

監督職員が行う機材の検査及び機材検査に伴う試験は下記による。

機材名	検査試験	備考
空調機器	○ ○	外観検査
送風機及び制気口類	○ ○	外観検査
衛生器具	○ ○	外観検査

● 施工調査 (第1編1.5.1~3)

事前調査 ●本工事 ○別途
調査項目 ●既存資料調査及び現地調査
調査範囲 ○図示 ●改修建物、インフラ
調査方法 ○図示 ●現地確認

● 技能士 (第1編1.5.2) [第1編1.6.2]

○ 施工の検査等 検査に伴う試験・立会い等 (第1編1.5.4~6) [第1編1.6.5~7]

○ 技術検査 (第1編1.6.2) [第1編1.7.2]

● 完成時の提出図書 (第1編1.7.1~5) [第1編1.8.1~6]

名称	体裁等
● 完成図	CADデータ(電子納品)及び電子データ
○ "	原因 ○A1版(一部) ○A3版(一部)
○ "	複写図 製本(A4版黒厚紙表紙金文字入り)(2部)
○ "	複写図 仮製本 ○A1版(一部) ○A3版(一部)
● 安全に関する資料	●紙媒体(2部) ●電子データ
● 工事写真	●紙媒体(1部) ●電子データ

※紙媒体はA4版ファイル綴じ、電子データはPDF形式とする。
電子納品は次による。
(1) 貸与する設計図CADデータの著作権者名：宮城教育大学
ファイル形式：JWW
貸与条件：貸与するCADデータを本工事における施工図又は完成図以外に使用しないこと。
(2) 電子納品の対象は上記によるほか、監督職員と受注者で協議を行う。
(3) 電子成果品は、提出前にウイルス対策を実施したうえで監督職員に提出する。
(4) 提出方法及びファイル形式は以下による。
CADデータ：JWW、DXF及びPDF
提出方法：CD又はDVDに保存し、1部提出する。

工事着手に先立ち、あらかじめ関係法令に基づき、石綿含有材料の事前調査を行う。

図面に特記なき場合は、工事区分表による。

換気扇、圧力扇及び標準仕様書に記載なく特記のないものの電動機の保護規格は、製造者規格による標準品としてよい。

● 50 Hz ○ 60 Hz

● 石綿含有材料の事前調査 (第1編4.1.2)

● 他工事又は他工種との取り合い

● 電動機 (第2編1.2.1) [第2編1.2.1]

● 電源周波数

● 容量等の表示

● 総合試運転調整 (第2編1.3.1~3) [第2編1.3.1~3]

● 足場その他 (第2編4.1.1) [第1編2.2.1]

● 本工事 ○別途
調整項目(測定箇所等は監督職員の指示による。)
●風量調整 ●水量調整 ●室内外空気の温度の測定
○室内気流及びじんあいの測定 ○騒音の測定 ●飲料水の水质の測定
○雑用水の水质の測定

● 別契約の関係受注者が定置したものは無償で使用できる。
○本工事で設置する。(図参照)
○内部足場(○種 ○種) ○外部足場(○種 ○種)
「手すり先行工法に関するガイドライン」に基づく足場の設置に当たっては、同ガイドラインの別紙1「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」における2の(2)手すり据置方式又は(3)手すり先行専用足場方式により行う。

○埋め戻し土・盛土 (第2編4.2.1) [第2編7.1.1]

○建設発生土の処理方法 (第2編4.2.1) [第2編7.1.1]

● 耐震措置

設備機器の固定は、次によるほか、すべて建築設備耐震設計施工指針2014年版(独立行政法人建築研究所監修)による。
(1) 機器の据付け及び取付け
設計用水平地震力は、機器の重量[kN](水槽類は満水時の液体重量を含む設備機器総重量)に、地域係数 _____ 及び次に示す設計用標準水平震度を乗じたものとする。

設計用標準水平震度					
機器種別	機器	○特定の施設		●一般の施設	
		重要機器	一般機器	重要機器	一般機器
上層階	機器	2.0	1.5	1.5	1.0
屋上及び塔屋	防振支持の機器	2.0	2.0	2.0	1.5
	水槽類	2.0	1.5	1.5	1.0
中間階	機器	1.5	1.0	1.0	0.6
	防振支持の機器	1.5	1.5	1.5	1.0
水槽類	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6
	機器	1.0	0.6	0.6	0.4
地階・1階	防振支持の機器	1.0	1.0	1.0	0.6
	水槽類	1.5	1.0	1.0	0.6

・上層階とは2~6階建の場合は最上階、7~9階建の場合は上層2階、10~12階建の場合は上層3階、13階以上の場合は上層4階とする。
・中間階とは地階、1階を除く各階で上層階に該当しないもの
・水槽類にはオイルタンクを含む。
・重要機器は次による。
[名称： 、記号：] [名称： 、記号：]
[名称： 、記号：] [名称： 、記号：]
[名称： 、記号：] [名称： 、記号：]
[名称： 、記号：] [名称： 、記号：]
[名称： 、記号：] [名称： 、記号：]
(2) 設計用鉛直地震力は、設計用水平地震力の1/2とする。

● 配管 (第2編第2章) [第2編第2章] <第2編1.1.1> <第2編2.1.1>

○ 地中埋設標等 (第2編2.7.1~3)

(1) ステンレス鋼管の接合は、下記による。
●呼び径60mm以下 (●SAS322を満足した継手 ○)
(2) 溶接部の非破壊検査 ○不要 ○要()

○ 絶縁継手 (第2編2.2.12) [第2編2.1.1]

○ 試験 (第2編2.9.1~5) [第2編2.7.1~5]

● 保温 (第2編3.1.1~6) [第2編3.1.1~3]

標準仕様書第2編によるほか次による。ただし、各工事種目で別に指定されたものは除く。
○多湿箇所は下記による。
室名： _____ 配管： _____
○共同構内の保温種別は下記による。
ダクト： _____

○ 塗装 (第2編3.2.1) [第2編3.2.1]

次の露出配管は、塗装又は記載の仕上げとする。
○屋外：○ドレン管 (○指定色塗装 ○)
○金属電線管 (○溶融亜鉛メッキ仕上げ[付着量300g/㎡以上] ○指定色塗装)
○屋内：○金属電線管 (○溶融亜鉛メッキ仕上げ ○指定色塗装)

● 電線類 (第2編4.7.1)

● 既存躯体への穿孔 (第2編5.2.1)

はつり工事及び穿孔作業を行う場合は、事前に下記の方法により埋設物調査を行い、監督職員に報告する。
○ 走査式埋設物調査 ●放射線透過検査

●空気調和設備	●設計温湿度	<table border="1"> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="2">外気</th> <th colspan="4">屋内</th> </tr> <tr> <th>一般系統</th> <th>一般系統</th> <th colspan="2">個別系統(目標値)</th> <th colspan="2">個別系統(目標値)</th> </tr> <tr> <td></td> <td>温度</td> <td>湿度</td> <td>温度</td> <td>湿度</td> <td>温度</td> <td>湿度</td> </tr> <tr> <td>夏季</td> <td>33.2℃</td> <td>57.4%</td> <td></td> <td></td> <td>26.0℃</td> <td>成行</td> </tr> <tr> <td>冬季</td> <td>-2.0℃</td> <td>68.8%</td> <td></td> <td></td> <td>22.0℃</td> <td>成行</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>℃</td> <td>%</td> </tr> </table>		外気		屋内				一般系統	一般系統	個別系統(目標値)		個別系統(目標値)			温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度	夏季	33.2℃	57.4%			26.0℃	成行	冬季	-2.0℃	68.8%			22.0℃	成行						℃	%	○ダクト (第3編1.14.1) [第3編1.2.1] ○排煙口の形式	○垂鉛鉄板 ○普通鋼板(厚1.6mm)	○排水設備	●配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1] <第2編2.1.1>	配管材料は(○下記による。●図示による。) (1) 屋内 雑排水管(合流) ○ 雑排水管(給湯室系統) ○ 汚水管 通気管 ポンプアップ管 (2) 屋外 第一樹まで 樹間	○特殊ガス等設備工事	○一般事項 <第5編1.1.1~2>	1) ガスの種別は、下記による。 ○窒素ガス(○高純度 ○一般) ○ヘリウムガス(○高純度 ○一般) ○酸素ガス(○高純度 ○一般) ○酸素ガス(一般) ○アルゴンガス(○高純度 ○一般) ○炭酸ガス(一般) ○圧縮空気(○高純度 ○一般) ○圧縮空気(空気圧縮機)
		外気		屋内																																															
一般系統		一般系統	個別系統(目標値)		個別系統(目標値)																																														
	温度	湿度	温度	湿度	温度	湿度																																													
夏季	33.2℃	57.4%			26.0℃	成行																																													
冬季	-2.0℃	68.8%			22.0℃	成行																																													
					℃	%																																													
○鋼板製煙道 (第3編1.1.3) [第3編1.1.1]	鋼板厚(○3.2mm ○4.5mm)	○低圧ダクト(○コーナーボルト工法(長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○アングルフランジ工法) ○スパイラルダクト(○低圧 ○) ○高圧1ダクト(範囲は図示による。)	○システム構成 その他	別図による。	○台所流し等の 排水管	○満水試験継手	○配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	○	○機材 <第5編2.1.1~2.4.3>	○システム構成 その他	別図による																																								
○ダクト (第3編1.14.1~3) [第3編1.2.1]			○電気計装用配線 (第4編1.5.1) [第4編1.2.1]	別図による。 屋外・屋内露出の電線は、図面に特記がなければ金属管配線とする。 天井内隠ぺいの配線は、図面に特記がなければケーブル配線とする。	○放流納付金等	○配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	○	○雨水利用設備	○施工 <第5編3.1.1~3.2.8>	○システム構成 その他	○配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	○遠隔表示式(パルス式) ○現地表示式(直読式)																																							
○チャンパー (第3編1.14.4) [第3編1.2.1]		(1)内貼を施すチャンパーの表示寸法は外法を示す。 (2)空気調和機に取り付けるサプライチャンパー、レタンチャンパー及びダクト系で消音内貼りしたチャンパーには、点検口を設ける。なお、大きさは図示による。 (3)外壁に面するガラリに直接取り付けけるチャンパーは雨水の滞留のないように施工する。	●自動洗浄装置 及びその組み込み 小便器	●個別感知フラッシュ方式(●AC電源 ○自己発電)		○弁類 (第2編2.2.1~6) [第2編2.2.1]	○図示による。(特記なき場合の耐圧は、5Kとする。) ○ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。	○衛生器具設備	○システム構成 その他	○配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	○	○量水器 (第2編2.2.16) [第2編2.1.1]	○遠隔表示式(パルス式) ○現地表示式(直読式)																																						
○ダンパー (第3編1.15.6~14) [第3編1.3.1]		(1)防煙ダンパー 復帰方式 遠隔復帰式(定格入力DC24V) (2)ピストンダンパー 復帰方式 遠隔式	●自動水栓の 電源種別	●AC電源 ○自己発電 ○		○保温 (第2編3.1.5) [第2編3.1.3]	湯沸器の給排水気筒(二重管)の隠ぺい箇所は保温を行う。なお、保温の種別は標準仕様書第2編3.1.5表2.3.5のh・(イ)・Ⅹとする。	○衛生器具ユニット (第5編1.1.3) [第5編1.1.1]	○システム構成 その他	○配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	○	○弁類 (第5編1.9.1) [第5編1.1.1]	○図面に特記なき場合の耐圧は、5Kとする。																																						
●配管材料 (第2編2.1.1~2) [第2編2.1.1] <第2編2.1.1>	配管材料は(○下記による。●図示による。) (1) 蒸気管 給気管 ○ 還管 ○ (2) 油管 ○ (3) 冷温水管 ○ (4) 冷却水管 ○ (5) ドレン管 ○ (6) 冷媒管 ○		●配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	配管材料は(○下記による。●図示による。) (1) 一般配管 ○ (2) 地中配管 ○ (3) 水道直結配管 ○引き込みは水道事業者の指定により、量水器以降の地中埋設配管は(○)とし、他の部分は(1)による。	○消火設備	○配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	配管材料は(○下記による。●図示による。) (1) 屋内消火栓 一般配管 ○ 地中配管 ○ (2) 連結送水管 一般配管 ○ 地中配管 ○ (3)	○給水設備	○事前調査 (第7編1.2.1)	○配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1]	●屋内消火栓種別 (第5編1.5.2) [第5編1.2.1]	○	○掘削 (第7編2.1.1) (第7編3.1.1)	○地中熱交換機 ○既設井分布調査 ○法的規制調査 ○地質情報の収集、整理 ○代表井による熱交換効率の把握 (測定方式：直流量方式) (解析方式：標準曲線法) ○周辺環境調査(騒音・振動測定)																																					
○弁類 (第2編2.2.1~6) [第2編2.1.1]	○図面に特記なき場合の耐圧は、JIS又はJVS Kとする。 ○ステンレス鋼管に取り付ける弁類は、ステンレス製とする。 ○ファンコイルユニットと冷温水管の接続部(往・還)には、ボール弁を取付ける。		●量水器 (第2編2.2.16) [第2編2.1.1]	○親メーター(○現地表示式(直読式) ○遠隔表示式(○電文式 ○ﾊﾞﾙｽ式)) (○貸与品 ○) ●子メーター(○現地表示式(直読式) ●遠隔表示式(○電文式 ○ﾊﾞﾙｽ式)) (●買取り ○)	○ガス設備	○配管材料 (第6編2.1.1) [第6編2.1.1] (第6編3.1.1)	○広範囲型2号消火栓 ○易操作性1号消火栓 ●1号消火栓 ○2号消火栓	○給水設備	○事前調査 (第7編1.2.1)	●配管材料 (第2編2.1.2) [第2編2.1.1] <第2編2.1.1>	○屋外露出部分 ●有(○e2・(ハ)・Ⅶ ●給水管と同等) ○無	○	○試験 (第7編3.1.4)	○																																					
●保温及び 消音内貼 (第2編3.1.1~2) [第2編3.1.1] [第2編3.1.3]	標準仕様書第2編3.1.4によるほか、次による。 ○蒸気還り管の保温(屋内露出は除く。) ○遠気ダクトの保温(保温の厚さ2.5mm、範囲は図示による。) ○外気ダクトの保温(保温の厚さ2.5mm、範囲は図示による。) ○膨張管及び膨張タンクよりボイラー等への補給水管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。 ○建物内のエア抜き管の保温は、標準仕様書第2編3.1.4の温水管の項による。(エア抜き弁以降の配管は除く。) ○暗渠内(ピット内を含む)の空調用ドレン管は保温(○有 ○無)とする。 ●冷媒管の保温外装は次による。 ○図示による ○屋内露出箇所 (○) ●屋外露出箇所 (●樹脂製化粧ケース)		●量水器樹 (第5編1.8.4) [第5編1.1.1]	○水道事業者指定品(○貸与品 ○買取り) ●標準用MC形	○ガス設備	○保温 (第2編3.1.5) [第2編3.1.3]	○面被覆鋼管の呼び径100A以下はねじ接合とする。	○給水設備	○掘削 (第7編2.1.1) (第7編3.1.1)	○配管材料 (第6編2.1.1) [第6編2.1.1] (第6編3.1.1)	○	○	○	○																																					
○換気設備	●ダクト (第3編1.14.1~3) [第3編1.2.1] <第3編1.2.1~4>	○低圧ダクト(○コーナーボルト工法(長辺の長さが1,500mm以下の部分) ○アングルフランジ工法) ●スパイラルダクト(●低圧 ○) ○高圧1ダクト(範囲は図示による。) ○厨房系統の排気用ダクトは、標準仕様書第3編2.2.2.2のダクトの板厚の項より1番手厚いものとする。(範囲は図示による。)	●弁類 (第2編2.2.1~6) [第2編2.2.1]	○	○ガス設備	○不活性ガス消火 設備 (第5編1.5.6) [第5編1.2.2]	別図による。	○撤去工事	●撤去内容 [第1編4.1.1~4.2.4]	○ダクト (第3編1.14.1~3) [第3編1.2.1] <第3編1.2.1~4>	○	○	○	○																																					
	●チャンパー (第3編1.14.4) [第3編1.2.1]	空気調和設備の当該項目による。	○水栓柱 (第2編2.2.23) [第2編2.1.1]	○	○ガス設備	○泡消火設備 (第5編1.5.8)	別図による。	○撤去工事	●発生材の処理等 [第1編5.1.1~2]	○ダクト (第3編1.14.1~3) [第3編1.2.1] <第3編1.2.1~4>	○	○	○	○																																					
	○シールする 排気ダクト の系統	○厨房系統 ○浴室(シャワー室、脱衣所を含む) ○	○建築物導入部 (第2編2.7.2) [第2編2.5.2]	○建築物導入部の変位吸収方法は、標準図(建築物導入部の変位吸収配管要領)による。 (○(a) ○(b) ○(c)) ○別図による。	○ガス設備	○ガス漏れ警報器 (第6編2.1.3) [第6編2.1.1]	○	○撤去工事	●発生材の処理等 [第1編5.1.1~2]	○ダクト (第3編1.14.1~3) [第3編1.2.1] <第3編1.2.1~4>	○	○	○	○																																					
	●保温 (第2編3.1.4) [第2編3.1.3]	●全熱交換ユニット用の外気取入れダクトの保温の仕様及び範囲は図示による。 ●全熱交換ユニット用の排気用ダクトの保温の仕様及び範囲は図示による。 ○(○厨房 ○湯沸室)の隠ぺい部ダクトの保温の仕様及び範囲は図示による。	○引込納付金等	○	○医療施設設備工事	○一般事項 (第11編1.1.1~3) [第11編1.1.1~3]	1) ガスの種別は、下記による。 ○酸素 ○亜酸化窒素(笑気) ○治療用空気 ○二酸化炭素 ○吸引(○水封式 ○油回転式) ○麻酔ガス排除(排ガス) ○圧縮空気(○治療用 ○手術機器駆動用) ○手術器械駆動用窒素	○撤去工事	●発生材の処理等 [第1編5.1.1~2]	○ダクト (第3編1.14.1~3) [第3編1.2.1] <第3編1.2.1~4>	○	○	○	○																																					

空調設備 機器表 (改修)

機器番号	機器仕様・型式	電気特性			付属品・特殊仕様	台数	設置場所	備考	
		φ	V	kw					
AC-1	電気式ヒートポンプエアコン 室外機 マルチ	消費電力	3	200	14.8	1	2階 屋外	附属中学校校舎 更新 冷媒管は既設再使用とする。	
	冷房: 40.0kw 暖房: 42.5kw	圧縮機	3	200	12.8				その他付属品一式
	送風機	3	200	0.40×2					
AC-1-1	電気式ヒートポンプエアコン 天井4方向	送風機	1	200	0.058	1	1階 保健室	更新 附属中学校校舎	
	冷房: 3.6kw 暖房: 4.0kw	送風機	1	200	0.058				防振吊金具、化粧パネル、その他付属品一式
	4	1階 職員室	更新						
AC-1-2	電気式ヒートポンプエアコン 天井4方向	送風機	3	200	0.058	1	1階 保健室	更新 附属中学校校舎	
	冷房: 5.6kw 暖房: 6.3kw								
	2	1階 校長室	更新						
AC-1-3	電気式ヒートポンプエアコン 天井2方向	送風機	1	200	0.035×2	1	2階 放送室	更新 附属中学校校舎	
	冷房: 11.2kw 暖房: 12.5kw								
AC-2	電気式ヒートポンプエアコン 室外機 マルチ	消費電力	3	200	14.8	1	1階 屋外	附属中学校校舎 新設	
	冷房: 40.0kw 暖房: 42.5kw	圧縮機	3	200	12.8				その他付属品一式
	送風機	3	200	0.40×2					
AC-2-1	電気式ヒートポンプエアコン 天井形	送風機	1	200	0.16	3	1階 家庭科室	新設 附属中学校実習棟	
	冷房: 14.0kw 暖房: 16.0kw								
AC-3	電気式ヒートポンプエアコン 室外機 マルチ	消費電力	3	200	6.19	1	1階 屋外	附属中学校校舎 新設	
	冷房: 22.4kw 暖房: 25.0kw	圧縮機	3	200	5.39				その他付属品一式
	送風機	3	200	0.14×2					
AC-3-1	電気式ヒートポンプエアコン 天井形	送風機	1	200	0.16	2	1階 美術室	新設 附属中学校実習棟	
	冷房: 11.2kw 暖房: 12.5kw								
AC-4	電気式ヒートポンプエアコン 室外機 マルチ	消費電力	3	200	6.25	1	1階 屋外	附属中学校実習棟 新設	
	冷房: 16.0kw 暖房: 18.0kw	圧縮機	3	200	5.55				その他付属品一式
	送風機	3	200	0.17					
AC-4-1	電気式ヒートポンプエアコン 天井形	送風機	1	200	0.08	2	1階 技術室	新設 附属中学校実習棟	
	冷房: 8.0kw 暖房: 9.0kw								

特記 1. 電源周波数は50Hzとする。
 2. 機器の能力・容量は表示された能力以上とし、電動機出力は参考値とする。
 3. インバーターは機器側で高調波対策を施すこと。
 4. 電源比率は別途とする。但し、連結機・高調波対策機間の電源配線は本工事とする。
 5. リモコンはワイヤードタイプとする。
 6. 室内機はロングライフフィルター、フィルター自動昇降機能付とする。
 7. エアコンの冷房・暖房能力及び消費電力は、JIS B 8616に規定された定格条件による。
 8. 機器選定温度条件
 ・冷房時室内吸込空気温度 (26.0℃ DB、18.7℃ WB) ・冷房時室外吸込空気温度 (32.7℃ DB)
 ・暖房時室内吸込空気温度 (22.0℃ DB) ・暖房時室外吸込空気温度 (-2.0℃ DB、-3.6℃ WB)

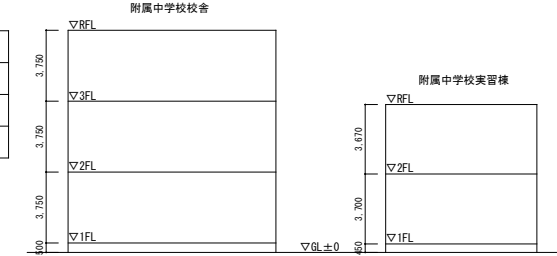
空調設備 機器表 (撤去)

機器番号	機器仕様・型式	電気特性			付属品・特殊仕様	台数	設置場所	備考	
		φ	V	kw					
AC-1	電気式ヒートポンプエアコン 室外機 マルチ	消費電力	3	200	16.43	1	2階 屋外	松下電器産業OU-J450M3 冷媒封入量0kg(回収済み)	
	冷房: 45.0kw 暖房: 50.0kw	圧縮機	3	200	4.87×2				その他付属品一式
	送風機	3	200	0.386×2					
AC-1-1	電気式ヒートポンプエアコン 天井4方向	送風機	1	200	0.058	1	1階 保健室	更新 CS-J36UH6U	
	冷房: 3.6kw 暖房: 4.0kw	送風機	1	200	0.058				ワイヤードリモコン、防振吊金具、ロングライフフィルター 化粧パネル、その他付属品一式
	4	1階 職員室	更新						
AC-1-2	電気式ヒートポンプエアコン 天井4方向	送風機	3	200	0.058	1	1階 保健室	更新 CS-J56UH6U	
	冷房: 5.6kw 暖房: 6.3kw								
	2	1階 校長室	更新						
AC-1-3	電気式ヒートポンプエアコン 天井2方向	送風機	1	200	0.035×2	1	2階 放送室	更新 CS-J112LH2U	
	冷房: 11.2kw 暖房: 12.5kw								

特記 電源周波数は50Hzとする。

凡例

記号	名称	仕様	施工区分	備考
R	冷媒管	冷媒用断熱被覆銅管 (制鋼線共巻)	屋内一般、屋外	屋外内露出部は化粧ケース格納とする。
D	ドレン管	結露防止層付硬質塩化ビニル管	1FL以上	
—	コア抜き			コア抜きリスト参照

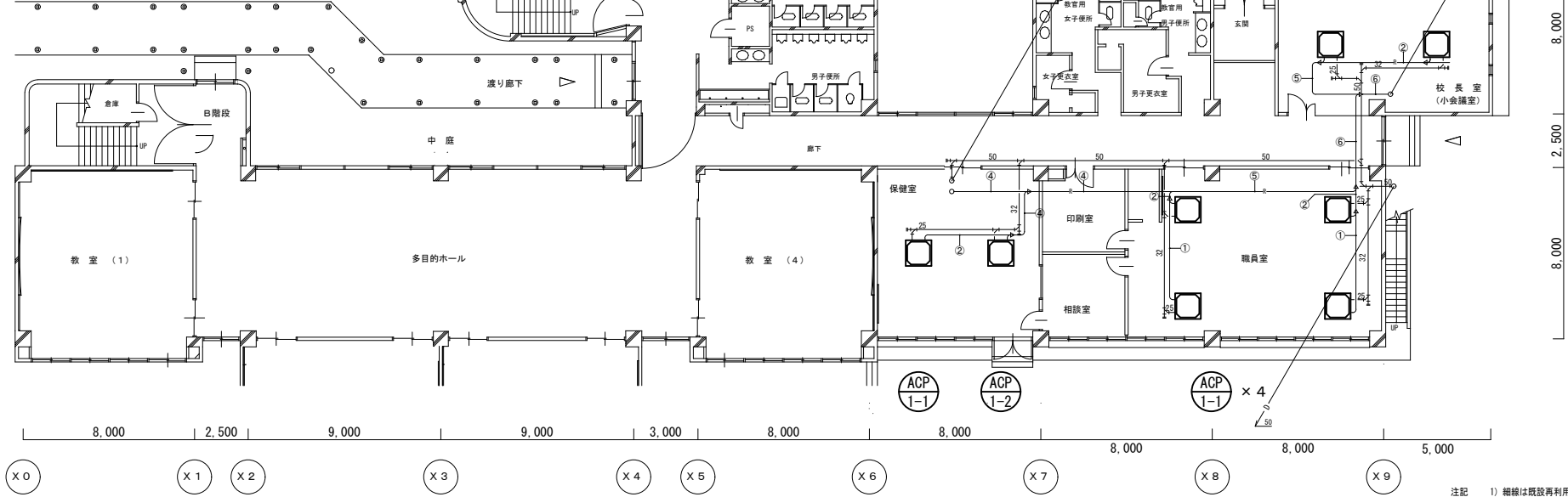
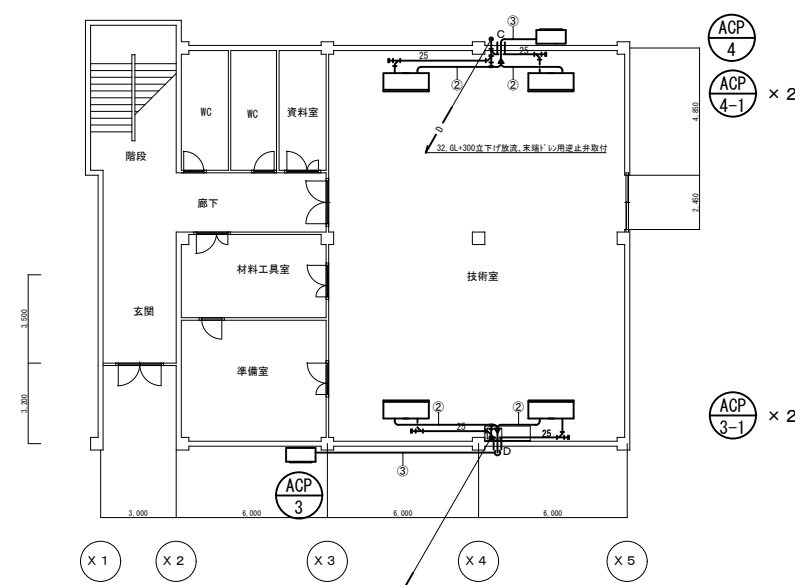
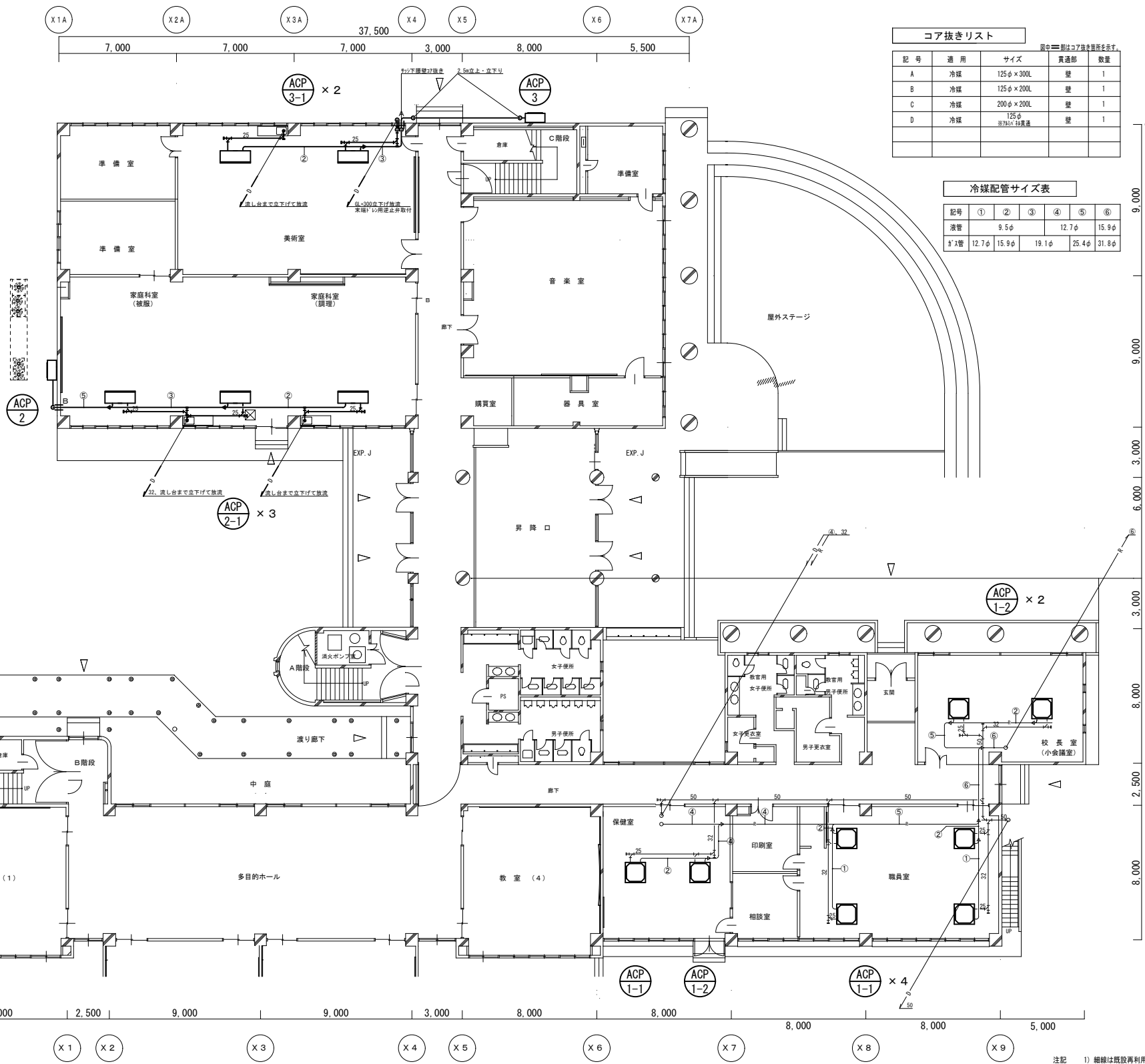


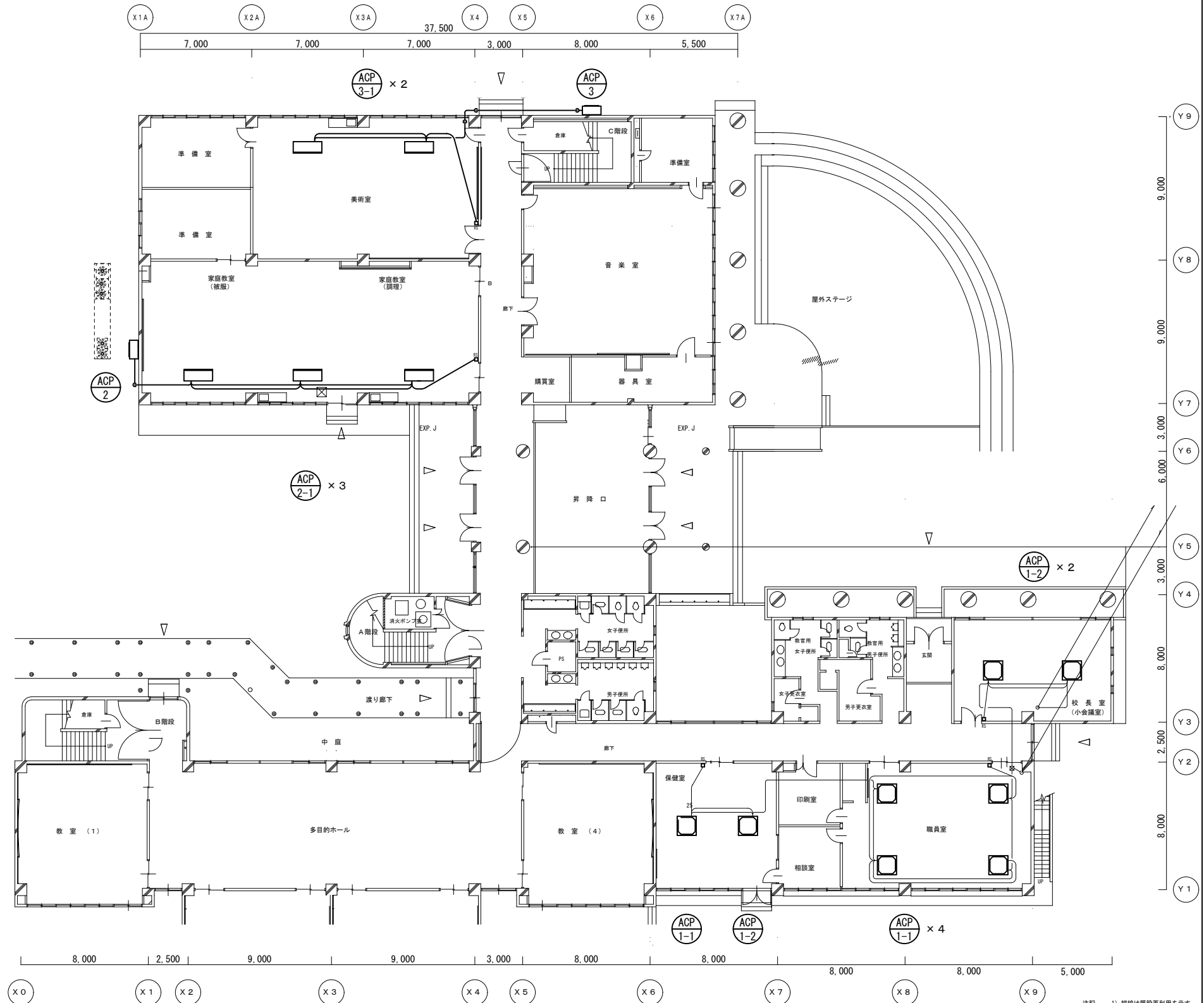
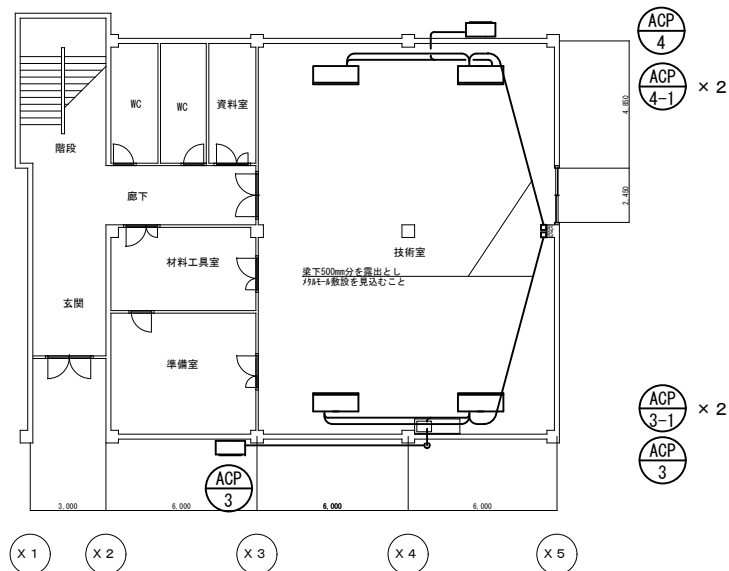
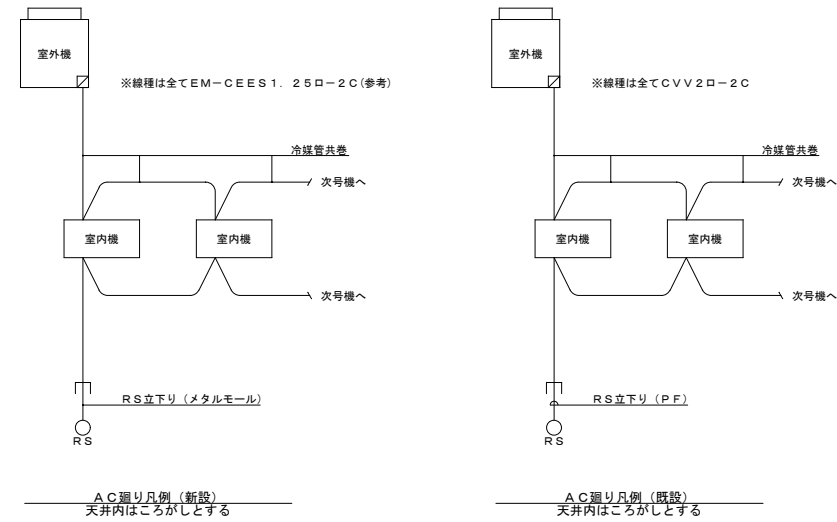
コア抜きリスト

記号	適用	サイズ	貫通部	数量
A	冷媒	125φ×300L	壁	1
B	冷媒	125φ×200L	壁	1
C	冷媒	200φ×200L	壁	1
D	冷媒	125φ	壁	1

冷媒配管サイズ表

記号	①	②	③	④	⑤	⑥
液管	9.5φ	12.7φ	15.9φ	19.1φ	25.4φ	31.8φ
ガス管	12.7φ	15.9φ	19.1φ	25.4φ	31.8φ	



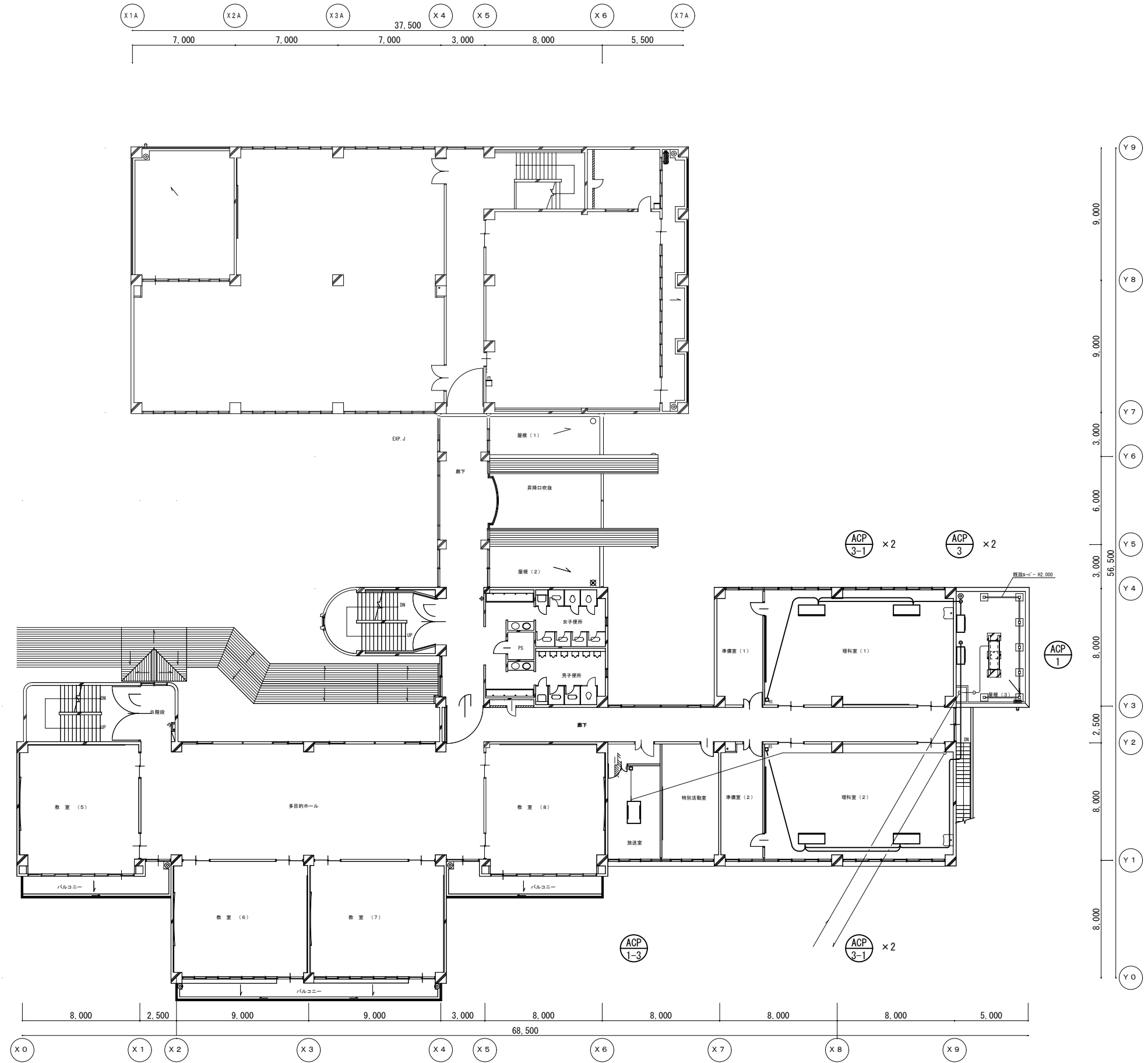


附属中学校実習棟 空調設備 1階平面図 S=1/300 (A3)

附属中学校校舎 空調設備 1階平面図 S=1/300 (A3)

工事名称 宮城教育大学(上杉)附属中学校校舎他空調設備改修工事	図面番号 M-03
図面名称 附属中学校校舎 自動制御設備 1階平面図	縮尺 A1: NS A3: NS
令和6年度 国立大学法人宮城教育大学施設課	
通し番号 5/6	

注記 1) 細線は既設再利用を示す。



附属中学校校舎 空調設備 2階平面図 S=1/300 (A3)

工事名称 宮城教育大学（上杉）附属中学校校舎他空調設備改修工事	図面番号 M-04
図面名称 附属中学校校舎 自動制御設備 2階平面図	縮尺 A1: NS A3: NS
令和6年度 国立大学法人宮城教育大学施設課	
通し番号 6/6	

注記 1) 細線は既設再利用を示す。